




QND Plus Ver.9.4 SP1 正誤表

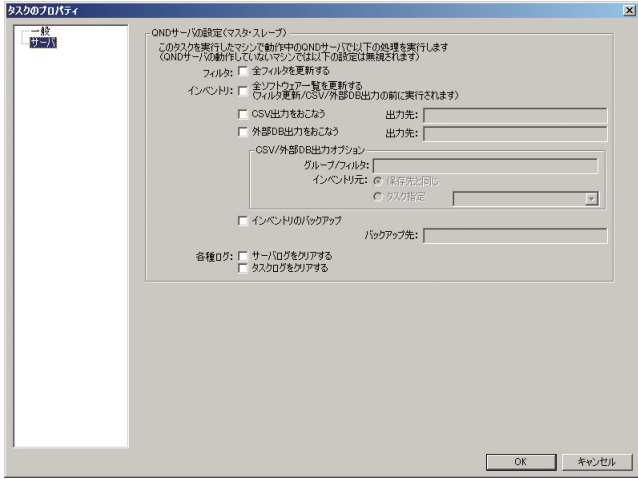
2009年2月27日 クオリティ株式会社

マニュアルの内容に誤り、追記事項があります。下記、正誤対象表をご覧ください。

■ 導入・メンテナンス編

ページ	見出し	誤		正
19	ホストの対応OS 表内「Windows」の詳細 バージョン	Windows XP Professional x64 Edition SP3	→	<削除>
New51	レプリケーションサーバの 役割	右の記述を追加	→	▶  「オプション」での設定
New69	3-2. インストール手順 手順18 注意:初回ブル実行時	また、OSがWindows NT系で制限 ユーザでログオンしているホス ト、OSがWindows Vistaのホス トでは、必ず管理者権限を持つア カウントでログオンしてください。	→	また、OSがWindows NT4/Windows Vistaのホストでは、必ず管理者 権限を持つアカウントでログオ ンしてください。
New69	3-2. インストール手順 手順18 注意:初回ブル実行時	右の記述を追加	→	ただし、次の条件をすべて満たす 場合は、制限ユーザでの初回ブル 実行が可能です。 ▶ ホストのOSがWindows 2000、Wi ndows XP Professional、Win dows Server 2003のいずれか であること。 ▶ QNDサーバに、ホストで利用可 能な管理者アカウント(*)が 登録されていること。 ▶ QNDエージェントの実行ファイ ルが配置されているディレク トリ、またはQNDエージェント の実行ファイルに対して管理 者アカウント(*)でアクセス できること。 * QND コンソールの [ツール] - [オプション] - [管理者情報] に登録されているアカウント。
76	タスクの自動実行の設定 手順6	右の記述を追加	→	 注意.CLIENTINSTALLERディ レクトリの配置先 パス名に2バイト文字が含まれて いない場所へ配置してください。 2バイト文字が含まれていると、 メッセージが表示され、QNDエー ジェントが実行されません。
New81	4-3. インストール手順 手順12 表内「項目」	標準	→	標準 (UDP)

ページ	見出し	誤		正
99	6-1. 管理者情報に登録手順4	 ヒント:ログイン名とパスワード ここで指定したログイン名がクライアントに存在しない場合は、新しいアカウントが追加されます。指定したログイン名がクライアントに存在する場合は、そのアカウントのパスワードが変更されます。	→	<削除>
99	6-1. 管理者情報に登録手順4	 注意 ログイン名が既に存在していて、所属するグループがadministratorsグループ以外の場合は、そのログイン名の所属するグループにAdministratorが追加され、パスワードも変更されます。ドメインのパスワードは変更できません。	→	<削除>
100	6-2. 管理者情報をホストのアカウントとして登録する手順6	右の記述を追加	→	 ヒント:ログイン名とパスワード ここで指定したログイン名がクライアントに存在しない場合は、新しいアカウントが追加されます。指定したログイン名がクライアントに存在する場合は、そのアカウントのパスワードが変更されます。
100	6-2. 管理者情報をホストのアカウントとして登録する手順6	右の記述を追加	→	 注意 ログイン名が既に存在していて、所属するグループがadministratorsグループ以外の場合は、そのログイン名の所属するグループにAdministratorが追加され、パスワードも変更されます。ドメインのパスワードは変更できません。
New116	2-4. ホストのバージョンアップ	右の記述を追加	→	ホストのOSがWindows NT系の場合は、OSに管理者アカウントでログオンしている必要があります。制限ユーザでログオンしている場合は、QNDコンソールの[ツール] - [オプション] - [管理者情報]に、ホストで利用できる管理者アカウントが登録されている必要があります。
New119	4. トラブルシューティング表内「失敗ケース」	特定の環境 ^(*) 下で「QPオプションとSUのインストール」に失敗する	→	<削除>
New119	4. トラブルシューティング表内「失敗ケース」	「QPオプションとSUのインストール」ができない	→	<削除>
New119	4-1. クライアントプログラムのリモートインストールができない場合	<4-1内の記述>	→	<削除>

ページ	見出し	正		
New125	2-1. サーバ用タスクを設定する 手順4の画像			
ページ	見出し	誤		正
New127	2-3. バックアップ	QND サーバのデータをバックアップについては、次の参照先を参照してください。	→	QND サーバデータのバックアップについては、次の参照先を参照してください。
New132	タスクを使ったアンインストール 表内「[配布]」の説明	▸ [セットアッププログラム名] タブで、ユーティリティプログラムの場所をUNCパスで入力する	→	▸ [セットアップ] タブの「セットアッププログラム名」に、ユーティリティプログラムの場所をUNCパスで入力する
New132	タスクを使ったアンインストール 表内「[配布]」の説明	▸ [セットアッププログラム名] タブの「セットアップの終了を検知する方法」で [検知しない] をオンにする	→	▸ [セットアップ] タブの「セットアップの終了を検知する方法」で [検知しない] をオンにする
146	対象OS	Windows XP Professional x64 Edition SP3	→	<削除>

■ 運用編

ページ	見出し	誤		正
New72	分散スケジュールを設定する 手順8	右の記述を追加	→	<p>注意:分散スケジュールの実行開始日</p> <p>分散スケジュールは、設定した翌日から実行されます。設定した当日は実行されません。</p>
New121	8-2. タスクを設定して実行する 手順7	[プラグインインベントリを収集] プルダウンメニューから、[QPRO (Win)] を選択し、[追加] をクリックします。	→	[プラグインインベントリを収集] プルダウンメニューから、[QPRD (Win)] を選択し、[追加] をクリックします。
New155	1-1. 全ソフトウェア一覧を確認する 手順1 表内「インストール済」の説明	詳細は、「指定したソフトウェアが未インストールのホストを確認する」(P. 156) 参照	→	詳細は、「特定のソフトウェアがインストールされているホストを確認する」(P. 157) 参照

ページ	見出し	誤	正
New155	1-1. 全ソフトウェア一覧を確認する 手順1 表内「未インストール」の説明	詳細は、「特定のソフトウェアがインストールされているホストを確認する」(P.157) 参照	→ 詳細は、「指定したソフトウェアが未インストールのホストを確認する」(P.156) 参照
New204	4-1. レジストリの値を変更する 手順13	☑「レジストリ」が閉じ、☑「レジストリエントリの取得」に選択した内容が表示されます。	→ ☑「レジストリ」が閉じ、☑「レジストリエントリの設定/削除」に選択した内容が表示されます。
New204	4-1. レジストリの値を変更する 手順16	☑「レジストリ」が閉じ、☑「インストールするソフトウェアのプロパティ」に戻ります。	→ ☑「レジストリエントリの設定/削除」が閉じ、☑「インストールするソフトウェアのプロパティ」に戻ります。
New219	MACアドレスインベントリを収集するタスクを設定して実行する 手順5	タスクの実行対象ホストがWindows NT系の場合、表示ツリーから、[一般]をクリックし、[Switch Userを使用する]にチェックを入れます。	→ 「取得待ち時間」に、MACアドレス取得を行う際の1台ずつの待ち時間を入力します。 (単位：ミリ秒)
New219	MACアドレスインベントリを収集するタスクを設定して実行する 手順6	「取得待ち時間」に、MACアドレス取得を行う際の1台ずつの待ち時間を入力します。(単位：ミリ秒)	→ タスクの実行対象ホストがWindows NT系の場合、表示ツリーから、[一般]をクリックし、[Switch Userを使用する]にチェックを入れます。
New240	フィルタを作成してホストを抽出する 手順11	☑「条件設定」が閉じ、☑「フィルタの設定変更」にフィルタ条件が追加されます。	→ ☑「条件設定」が閉じ、☑「フィルタの作成」にフィルタ条件が追加されます。
New282	注意事項	▶ ユーザがログオン画面で[キャンセル]をクリックし、Windowsにログオンしていない場合、リモートコントロール、メッセージ送信、プロセス監視が正常に動作しない場合があります。	→ ▶ ホストがWindowsにログオンしていない場合、リモートコントロール、メッセージ送信、プロセス監視が正常に動作しない場合があります。
New282	注意事項	右の記述を追加	→ ▶ Windowsのリモートデスクトップ接続機能で、コンソールセッション接続 (/console) されている場合、QNDのリモートコントロールが正常に利用できません。
ページ	見出し	正	
315	1-3. 定期的にメールサーバと接続できる場合 画像	<p>QNDサーバーと常時接続していないホスト(モバイルPCなど) メールサーバと定期的に接続できる場合</p> <p>タスクの設定 QND コンソール → QND サーバ (マスターサーバ)</p> <p>タスク実行 → ホスト</p> <p>インベントリ送信 (メールサーバと接続時)</p> <p>バックグラウンド実行で定期的にインベントリ収集 (インベントリをローカルディスクに保存)</p> <p>QND サーバと接続できるネットワーク</p> <p>回収 → メールサーバ</p> <p>QP オプション</p>	

ページ	見出し	誤		正
New334	タスクを実行する手順2	☞「タスクのプロパティ」の[インベントリ設定]で設定した内容にしたがって、インベントリがFTPサーバに送信されます。	→	☞「タスクのプロパティ」の[インベントリ送信]で設定した内容にしたがって、インベントリがFTPサーバに送信されます。
New350	Macintosh用モジュールをQNDサーバにコピーする手順	<手順3以降>	→	<p>3 MacAgent/QNDPlus/binを参照します。</p> <p>4 MacAgent/QNDPlus/binフォルダを Windows/Macintosh 共有フォルダ「Microsoft UAM Volume」にコピーします。</p> <p>5 QNDサーバのサービス [Application Integrate Server] を停止します。</p> <p>6 4でコピーしたbinフォルダを (QND サーバのインストールディレクトリ) ¥binへ上書き保存します。</p> <p>7 (QNDサーバのインストールディレクトリ) ¥bin¥MAC内の ja、en-us、zh-cnディレクトリに保存されているqndamac.ex_ファイルが読み取り専用になっていないかどうかを確認します。 読み取り専用になっている場合は、読み取り専用のチェックを外してください。</p> <p>8 QNDサーバのサービス [Application Integrate Server] を開始します。</p> <p>9 スレーブサーバを配置している場合は、4でコピーしたbinフォルダをスレーブサーバの (QND サーバのインストールディレクトリ) ¥binへ上書き保存します。</p>
New351	3-4. QNDエージェントを送る	右の記述を追加	→	Mac OSX10.4以降用の実行ファイルの場合は、この2つの方法に限らず、Windows用の実行ファイルと同様の方法 (ファイルサーバを利用するなど) でQNDエージェント送ることができます。
357	ソフトウェア情報 表内「ソフトウェア情報」の 収集対象アプリケーション	endmail	→	sendmail
New403	QNDサーバにCSVファイルを インポートする 手順8	[閉じる] をクリックします。	→	画面を閉じます。

ページ	見出し	正	
New405	既存インベントリファイルを作成する 手順1 CSVファイルの例	“社内管理番号”, “ユーザ名”, “設置部署”, “購入年月日”, “内線番号”, “設置場所” “A001”, “XXX XXX”, “営業部”, “2007/01/16”, “208”, “2F” “A002”, “XXX XXX”, “営業部”, “2007/01/16”, “208”, “2F” “A003”, “XXX XXX”, “営業部”, “2006/06/30”, “208”, “2F” “A004”, “XXX XXX”, “総務部”, “2007/01/16”, “310”, “3F” “A005”, “XXX XXX”, “総務部”, “2007/01/16”, “310”, “3F”	
ページ	見出し	誤	正
New412	8-1. ODBCドライバを使用するための準備をする 手順4	現在ログイン中のユーザが、使用中のPCでのみODBCドライバを利用する場合は【ユーザーDSN】を、すべてのユーザが利用できるよう設定する場合は【システムDSN】タブをクリックします。	→ 現在ログイン中のユーザが、使用中のPCでのみODBCドライバを利用する場合は【ユーザーDSN】タブを、すべてのユーザが利用できるよう設定する場合は【システムDSN】タブをクリックします。

■ リファレンス

ページ	見出し	誤	正
New31	「全スケジュール一覧（クライアント用）」- 「一覧表示」タブ 表内「コピー」の説明	右の記述を追加	→ <ul style="list-style-type: none"> 設定方法は次のとおりです。 1. 設定されているスケジュールを選択します。 2. 右クリックして表示されるコンテキストメニューで【コピー】を選択します。 3. いったん「全スケジュール一覧（クライアント用）」を閉じます。 4. スケジュールをコピーするホストを選択して、メニューの【スケジュール】- 【スケジュールの貼り付け】をクリックして、スケジュールを貼り付けます。
New36	タブの内容をCSV出力する	右の記述を追加	→ <p>▼ ヒント:CSVファイルの出力先</p> 全ソフトウェア一覧からCSV出力すると、デフォルトでは(QNDサーバのインストールディレクトリ) ¥TEMP¥SoftwareList内にCSVファイルが出力されます。 また、「サーバ固有の設定」画面の【CSV設定】からCSV出力すると、同画面の【CSVファイル保存用ディレクトリ名:】で設定した場所にCSVファイルが出力されます。
New45	「宛先の設定」 表内「追加」の説明	「メッセージ編集」が表示されます。	→ <削除>
New89	9-2. iAMTによるホスト検索/登録 表内「ホスト名」	ホスト名	→ iAMTアドレス

ページ	見出し	誤	正
New100	2. SU/QP/RCオプション 表内「Switch Userをインストールする」の説明	右の記述を追加	<p>注意:初回プル実行時</p> <p>初めてタスクをプル実行するホストでは、必ずWindowsディレクトリに書き込み権限があるアカウントでログオンしてください。また、OSがWindows NT4/Windows Vistaのホストでは、必ず管理者権限を持つアカウントでログオンしてください。SUのインストール後は、制限ユーザでログオンしていても管理者権限が必要な処理ではユーザが自動的に切り替わります。</p> <p>ただし、次の条件をすべて満たす場合は、制限ユーザでの初回プル実行が可能です。</p> <p>→</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ホストのOSがWindows 2000、Windows XP Professional、Windows Server 2003のいずれかであること。 ▶ QNDサーバに、ホストで利用可能な管理者アカウント(*)が登録されていること。 ▶ QNDエージェントの実行ファイルが配置されているディレクトリ、またはQNDエージェントの実行ファイルに対して管理者アカウント(*)でアクセスできること。 <p>* QNDコンソールの [ツール] - [オプション] - [管理者情報] に登録されているアカウント。</p>
108	4-1. ソフトウェアインベントリを収集表	右の記述を追加	<p>注意:ワイルドカードの指定方法</p> <p>ファイル名と拡張子に「*」を指定できます。 例) 「a*.exe」、「*.*」、「*.exe」</p> <p>→</p> <p>ただし、ファイル名と拡張子について、「*」以降の文字列は検索条件とならないため、「*a.exe」、「*a*.exe」、「*a.*」などを指定した場合、意図したファイルは収集されません。</p>
New123	必要なディスク容量の目安表内「条件」	[ファイルコピー]を選択した場合	→ <削除>
New127	転送元ファイル名(転送先ディレクトリ名)で利用できる環境変数表下説明	[転送先ファイル名]のみに設定した場合、接続先QNDサーバのCD-ROMドライブパスとして変換します。	→ [転送元ファイル名]のみに設定した場合、接続先QNDサーバのCD-ROMドライブパスとして変換します。

ページ	見出し	誤		正
New135	9-2. ポリシの内容 表内「デスクトップ上のすべてのオブジェクトを隠す」のWin9xとWinNT	右の記述を追加	→	○
New137	10-1. 「ホストグループの選択」	「タスクのプロパティ」- [実行管理] で、[実行制限] 欄内の [実行可能なグループ・フィルタから設定] にチェックを入れると、[実行制限] 欄内 [追加] がアクティブになります。	→	「タスクのプロパティ」- [実行管理] で、[実行制限] 欄内の [実行可能なグループ・フィルタを設定] にチェックを入れると、[実行制限] 欄内 [追加] がアクティブになります。
New163	1. サーバ管理 表内「パケット分割サイズ (byte)」の説明	一般的な目安として、ネットワークが混雑している場合は1024byteで、効率の良いネットワークの場合には 8192byte程度 に設定します。	→	一般的な目安として、ネットワークが混雑している場合は1024byteで、効率の良いネットワークの場合には 4096byteに設定 します。(最大4096byte)
New166	3. インベントリ 表内「メールサーバアドレス」の説明	「タスクのプロパティ」- [インベントリ送信] の [インベントリをファイルとして取得] の [送信するメールサーバアドレス] に設定したメールサーバアドレスを入力します。	→	「タスクのプロパティ」- [インベントリ送信] の [インベントリを電子メールで取得] の [送信するメールサーバアドレス] に設定したメールサーバアドレスを入力します。
New168	4. インベントリ表示 表内「場所を指定」の説明	[...] をクリックするとディレクトリを選択するための「QNDエージェントを共有するディレクトリ」が表示されます。	→	[...] をクリックするとディレクトリを選択するための「QNDインベントリディレクトリ」が表示されます。
New174	マスターサーバ/スレーブサーバが使用するポート番号 表内	右の記述を追加	→	APPサーバ 1024～5000 → マスターサーバ 29001 TCP APPサーバと接続するポート
New174	マスターサーバ/スレーブサーバが使用するポート番号 表内	右の記述を追加	→	スレーブサーバ 1024～5000 → マスターサーバ 3500 TCP スレーブサーバからの要求を受けるポート
New174	マスターサーバ/スレーブサーバが使用するポート番号 表内	右の記述を追加	→	QNDサーバ 1024～5000 → ホスト 445(SMB)/135(RPC) TCP リモートインストール時に使用するポート
New174	マスターサーバ/スレーブサーバが使用するポート番号 表内	右の記述を追加	→	QNDエージェント 1024～5000 → QNDサーバ 445(SMB) TCP リモートインストール時に使用するポート
New176	QNDホスト利用時に使用するポート番号 表内	右の記述を追加	→	RC オプション 1024～5000 → QNDサーバ/QND コンソール 5500 TCP RC オプションからの要求を受けるポート
New176	QNDホスト利用時に使用するポート番号 表内 最終行	RC オプション 1024～5000 → ACPCサーバ 1024～5000 RC オプションからの返信を受けるポート	→	<削除>

ページ	見出し	誤		正
New208	6-4. HW-DMI	DMI情報を表示するには、QNDコンソールで、「タスクのプロパティ」- [ハードウェア/インベントリ] の [DMIを使用する] にチェックを入れたタスクを実行して、ハードウェアインベントリを収集する必要があります。	→	DMI情報を表示するには、QNDコンソールで、「タスクのプロパティ」- [ハードウェア/プラグイン] の [DMIを使用する] にチェックを入れたタスクを実行して、ハードウェアインベントリを収集する必要があります。
New233	CSVファイルとして出力する台帳や出力先を指定する手順1	(QNDサーバのインストールディレクトリ) ¥QIV¥SRVDDAT¥util ¥OutputCSV. ini. sample ファイルをメモ帳等のアプリケーションで開きます。	→	(QNDサーバのインストールディレクトリ) ¥QIV¥SRVDAT¥util ¥OutputCSV. ini. sample ファイルをメモ帳等のアプリケーションで開きます。
New263	6-3. [リモートコントロール] タブでの設定 表内「圧縮表示モード」の説明	QND コンソールでホストを右クリックして「ホストの状態」からリモートコントロールを開始する場合は、圧縮表示モードで表示され、モードを変更することはできません。	→	QND コンソールでホストを右クリックして「ホストの状態」からリモートコントロールを開始する場合は、この設定に関係なく、通常の表示モードで表示されます。